

当日の様子

今年度は昨年までの受講者アンケートを反映し、村山と庄内の2会場で開催しました。庄内の方は参加しやすくなり、また1会場ごとの参加人数が減ったので、講師の先生や受講者同士の距離が縮まり、更に充実した研修となりました。

◆講義①「生涯学習・社会教育とは～生涯学習・社会教育関係職員に求められる役割」

「社会教育とは何か」という概念を、日本における戦後からの教育の歴史や諸外国との比較を通して、各種法令を紐解きつつ講義いただきました。



講師の安藤先生

参加者の声

- ・概念など、図式で丁寧に説明していただき、理念の理解が深まった。
- ・社会教育に携わる者として、思考や行動の根幹におくべき重要な講義をいただいた。現場にどうかしていか、公民館主事にも共有しながら、今後の業務に生かしていきたい。
- ・教育と学習の違い、生涯教育、社会教育の違い等、わかりやすく教えていただきました。
- ・ここ数十年で大きな変化があったことが分かりました。

◆講話：令和6年度 県生涯学習・社会教育行政施策概要

講師の木村社会教育専門員より、今年度の山形県の社会教育・生涯学習行政施策概要についての説明や、新任職員へのメッセージをいただきました。



村山会場



木村専門員による講話

◆事例提供：令和5年度「郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業」について

村山・庄内会場それぞれ2人ずつの発表者によって、実際に地域で行った中学生が企画・実施する体験プログラム普及事業について報告がありました。

参加者の声

- ・中学校から、中学生に企画から参加させてほしいと相談もあったので、具体的事例は参考になった。
- ・自分の市町村で活用できる内容があった。活かしたい。
- ・中学生年代へのアプローチは、これまでなかなか取り組めていなかったものであり、地域との継続的なかかわりを持ち続けるためには、重要な取り組みと考えている。公民館主事にとって、中学生とのかかわりについて学ぶ機会は、この事業実施にあたり、必須と感じました。

◆講義②&演習「社会教育のマネジメントはこうありたい～LRDCマネジメントサイクルと「熟議」の活用～」

最後の講義では社会教育とは何か、教育基本法の解説からスタートし、熟議やLRDCマネジメントサイクルを活用した事務事業の作り方についてお話いただきました。講師のこれまでの経験から生まれたLRDCマネジメントサイクルによる事業の進め方、また地域を巻き込み横のつながりであるネットワークを張り巡らせることの重要性を学びました。

熟議とは…多くの当事者（関係する地域住民等）が集まって地域の課題について学習・熟慮し、討議することによって互いの立場や果たすべき役割への理解を深めること。熟議を重ねることで解決策が洗練され、個々人が納得して自分の役割を果たすようになっていくといわれています。今回は受講生4～6人のグループごとに「これからの山形をつくる人たち（子どもたち）に伝えたい『山形らしさ』ってなに？」をテーマに、活発な熟議を行いました。



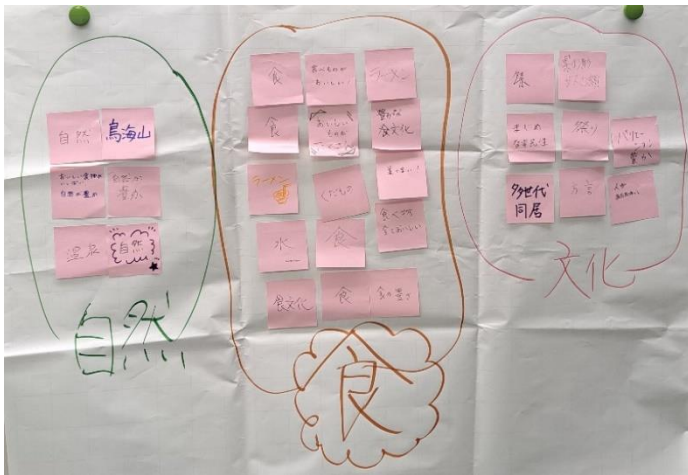
講師の皆川先生



村山会場演習の様子



庄内会場演習の様子



庄内会場

村山会場

今回の熟議の成果です。

地域の違いが表れて、楽しい結果になりました！

参加者の声

- ・社会教育の果たす役割や意義について改めて、また新たな視点で学ぶことができた。
- ・本日受け取った気持ちを持ち帰って、地域に生かしていけるような仕事をしたい。今まで、地域のため、と大きなひとづくりで仕事へのスタンスはあったが、それはどうしてか、何のためか、掘り下げて勉強できて、とても充実した時間を過ごすことができた。
- ・誰もが気軽に臨める「熟議」大変有効で、色々な場所で使えるスキルだと思う。いただいた資料を読み返し、ぜひ今後活用したい。
- ・社会教育という分野に興味かかった。